2021年度大学院 研究・制作・発表助成　審査結果・総括

2021年度大学院 研究･制作･発表助成の審査の結果、以下の申請に対して助成を行うことを決定しました。

申請者	所属 （芸術専攻）	申請内容（テーマ・タイトル等）
岸本洋一	D3	高知・大阪における戦前期青年団の史蹟顕彰事業に関する調査
シャンツァー・アルマ	D2	ダークボックスProject　―湿板写真の制作用の可搬式の暗室―
景燁	D2	博士課程での取り組みを検証する展覧会とギャラリートーク - 作品コンセプトアートの展示と横田正夫先生・今京子氏とのディスカッション -
手塚一佳 北桂樹 古澤京子 シャンツァー・アルマ 石川宝 武欣悦	D2 D2 D2 D2 M2 M2	京都芸術大学大学院関東分科会主催 2021年度学際展示展覧会「あたらしい当たり前のかたち展2」
御村紗也	M2	個展による作品発表とそれに向けた制作から、線と面の表現の関係性について知る
Yang Xinxin	M2	ポストコロナにおける国際展のあり方について
鄧莉	M2	女書をブランディング化し、アクセサリーの制作
本田莉子 倉光優	M2 M2	東北地方における文化の実地調査
清田菜央 太田恵以 Guo Yugao Wan Miao	M1 M1 M1 M1	【不可視現実～invisible reality～】 -見えないコミュニティの中でのアートの在り方について-

申請者は、6月7日（月）17:00までに実施計画書を教学事務室へ提出してください。

2021 年度大学院　研究・制作・発表助成審査会総評

〇今年度は 13 件の申請があり、９件が採択されました。その内訳は個人による申請が博士課程から３件、修士課程から３件。グループでの申請が３件でした。グループ３件の構成は、M1 生４名によるグループ、M2 生２名によるグループ、そして D2 生４名と M2 生２名の学年縦断によるグループでした。領域横断のみならず、学年をも縦断するグループも生まれてきていることは大変嬉しいことで、院生各人の主体的発想力と行動力を発揮して研究・制作に取り組むことができる本学大学院の特徴がよく表れた結果となりました。

〇1 次審査では、11 名の審査員が申請書の内容を基に審査をおこないました。審査は、領域横断的な視点の有無を考慮しながら、募集要項の「採択基準」に①～⑤として明示された諸点を評価ポイントとして実施しました。審査員による採点により、この評価ポイントを十分に満たさないと判断された申請は、この時点で不採択となりました。

〇２次審査は、３名の審査員による面接形式で行い、申請書類だけでは分からなかった点について確認しました。直接話を聞くことで、助成の必要性を改めて認識できた反面、テーマや研究対象の根拠が不明確であったり、テーマを実現するための助成費目の必要性が十分に示されないケースもありました。

〇１次審査、２次審査の内容を厳正かつ公平に検討した結果、２次審査に進んだ９件全ての申請に対して助成を行うことになりました。ほぼ申請額通りの認定が２件、残る７件はいずれも上記の「助成費目の必要性と金額の妥当性」を精査した結果、申請額から減額しての助成です。結果として、限られた全体予算を今年度も有意義に配分できたと判断致します。

〇2 次審査に進んだ９件の計画内容は、いずれもそれぞれの専門的視点を深めつつ、それらを創造的に超えてゆく独創性の獲得に向けて、コロナの今に屈することなく、コロナ後の時代を見据えていこうとする強い意志が感じられる、頼もしいものばかりでした。

〇この助成制度は、次年度も実施する予定です。この総評を参考にして、ぜひ次年度もチャレンジして下さい。

（文責：河合　健）